

第25回 はあとふる学会



11月27日、「はあとふる学会」をLICはびきので開催しました。

今回で25回目。三谷圭司学会長は四半世紀ということに重みを感じ、テーマを“伝承と革新”とし、法人の長い歴史と、動き出した新しい島田病院や新規事業を準備する中で、将来に向けた思いを合わせて表現しました。

28演題が発表され、活発な質疑応答もおこなわれ、グループ内の様々な取り組みや研究を共有することができました。

学会を通してさらにグループ内多職種がつながり、日々提供するヘルスケアサービスにより一層厚みが出せることを確信しています。



■特集

島田病院リニューアル 「治し支えるケア」を 提供するために

オリンピック レポート リオに行ってきました

島田病院スケート部
村竹崇行選手が優勝しました!!

トピックス はあとふるグループ公開講座を 開催しました

 島田病院フェイスブックを始めました。

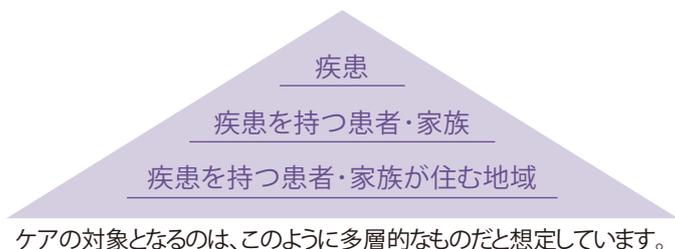


島田病院、八尾はあとふる病院は「病院機能評価認定病院」です。

はあとふるグループ | 医療法人(財団) 永広会
社会福祉法人 はあとふる

島田病院リニューアル ～「治し支えるケア」を提供するために～

5月にオープンした新病院は、これまで43床の「リハビリテーション機能の充実した整形外科専門診療を行う急性期病棟」に加え、45床の「地域包括ケア病棟」を開設し88床の病院になりました。



島田病院 これからのケア

平成25年8月の社会保障制度改革国民会議報告書にあるように「病院完結型の『治す医療』から地域完結型の『治し、支える医療』」がかなうよう私たちは地域での役割を果たしたいと考えています。私たち「はあとふるグループ」では、このような社会環境の変化に対応するために、新たに取り組むことや強化することがありますので、ご紹介します。

私たちができることは運動器の分野に限られています。診療としては、整形外科とリハビリテーションです。この診療のために、整形外科医に加えて、麻酔科医、内科医、リハ専門医が必要です。運動器ケアとは、整形外科の診療ではありません。運動療法を主体とした保存療法やどうしても改善しない場合の手術療法、そして、その方の生きている上での目標をできるだけかなえることができるよう、QOL維持に向けてのリハビリテーションが一体となったものを意味すると考えています。従って、スポーツ選手に生じたケガや障害を対処するときにも、単に治すだけでなく、現場にもとの能力、さらにはもと以上の力で復帰し、いったん復帰すれば二度と同じことを起こさない予防までも含めた対応を心がけています。そして、高齢者に生じた運動器の問題に対しても同様です。単に、その傷んだ箇所を修理するだけでなく、その方の生活環境や今後の希望、介護の状況など総合的に把握して、ご本人・ご家族と一緒に対策を検討します。

私たちが対応できること

手術後のリハビリテーションを行うことで安全に自宅に帰るためのケアを提供するための入院、強い痛みで日常生活に不具合が生じている方のために治療や介護を行うための入院、脳卒中や脊髄損傷、交通事故で急性期の治療を終えた後に、残っている機能障害など専門的なリハビリテーションを行い、できるだけもとの生活に戻ることを目的とした入院などにも、対応することができるようになりました。今まで、病床の余裕がありませんでしたが、そういったことができるようになりました。

さらに、地域包括ケア病棟として、自宅や介護施設での脱水症状や低栄養、また感染症などに罹患した場合の入院も可能となりました。

在宅での生活をできるだけ安心して続けてもらうための後方施設として、隣接する介護老人保健施設「悠々亭」や通所や訪問サービスとともに、地域の皆さまや他の事業所の方々、そして行政の担当窓口とも交流の輪を強化し、ご希望やご家族の計画を十分に伺いながら、最適な対応ができるように、組織の再構成やスタッフの教育・研修を進めています。住み慣れた地域で人生を全うするための「地域包括ケア体制」を確立するために、この新病棟と、はあとふるグループがお役に立ちたいと願っています。



平成29年、島田病院エントランス、Eudynamicsはびきのヴィゴラスがオープンします。

1F 外来／リハビリテーションルーム

手術目的で来院される患者さまが多いため、細やかな配慮と納得のいく説明ができる環境を整え、落ち着いた雰囲気の外來診療を提供したいと考えています。3.0T・1.5T MRI、64列CTなど最新の検査機器を導入しており、島田病院を受診される患者さまだけでなく、地域の医療機関の先生方にも活用して

いただくことが可能です。そして、外來患者さま用の広いリハビリテーションルームでは、徹底した保存療法を行います。その徹底した保存療法を経て手術適応と判断した場合は、入退院の過程で切れ目なく手術前後のリハビリテーションを行っています。



総合受付 待合ホール



1F MRI室

■外来看護課長 新見さん／リーダー 中村さん

新病院になって新しくなったことがたくさんあるので、少しご紹介します。待合室では、患者さまの診察等の案内をモニターで行うようになりました。最初は混乱もあるかな?と想着ていましたが、思ったよりスムーズで、待ち時間の短縮にもつながっています。インカム(院内通信機器)導入で、これまでは移動して、スタッフ同士で意思疎通しないとけなかつたことが、どこにいても対応できるようになりました。待合室は、開放的な空間になり、窓際には、学生さんが勉強したり、パソコンでお仕事されたり、読書したり、新聞を読んだりすることができるスペースがあり、待ち時間を有効に使ってもらえるようになりました。



診察室裏のスタッフエリアが広がったことで、働きやすい環境になりました。そこで、多職種で情報共有がしやすくなり、業務がスムーズに行えていることを実感しています。そこには、手術室モニターが設置されており、手術の進捗状況が分かり、医師との連携がしやすくなりました。外來処置室のスペースも広がったので、救急にも対応しやすくなりました。また、外來で患者さまのプライバシーに配慮して話ができるブースが増えたことなども良い点だと思います。

新病院になって、スタッフが生き生きと働ける環境で、患者さまに安全・快適をモットーに、やさしく、思いやりのある外來にしていきたいと考えています。

■リハビリテーション部 副主任 大塚さん

「新病院を成功させるんや」という、一つの共通の目標に向かってみんなで準備を重ねてきました。そんなみんなが、私には、すごく格好良く写りました。それぞれの立場で本気で考え、形にしてきた経験と、引越しが終わった後のみんなの笑顔に、張り詰めていた緊張感が一瞬途切れ、初めて泣きました。今の課題は、スタッフ一人ひとりの考えを思い切って出し、本気を見せて、より良いケアを作り上げていくことだと思っています。患者さまに、スタッフに、そして病院にとって、「ええことをやりたい。」その強い想いがベースにあって今の私を奮い立たせている、そう感じています。



2F 手術室

手術室の環境としては、①入室から退室後まで、徹底した安全なケアを追求し、患者さまが穏やかな気持ちで手術を受けることができる。②整形外科医、麻酔科医が高いレベルの技術を発揮することができる。③その技術を円滑に遂行させるため、職員相互の強いサポートが可能で、チーム力を育むことができる。の3点を重要に考えました。また、最良の手術をタイミング良く、手術の必要な多くの方に提供できるよう、応用がきく広めの手術室を5室配置しました。手術室に関しては、パートナーとしてマッケ・ジャパン株式会社を選択し、トータルコーディネートを依頼しており、様々なハイスペックな医療機器を円滑にリンクさせることができます。



■手術室・3階病棟 看護課長 畠中さん

新病院になりすばらしいハードで、看護動線が良くなりました。患者さまの入退室も重ならなくなりました。手術室内に回復室ができたことで常に医師がいるため、術直後の患者さまの様態の変化に迅速に対応できます。また、手術室看護師が病棟へ患者さまをお迎えに行き、直接手術室までお送りするという運用に変更したことで、患者誤認を防止し、より安全に手術を受けて頂くことができるようになりました。今後の展開としては3階病棟と協働し看護師同士が隔てなく急性期ケアを実践していけたらと考えております。その実践の一つとして現在病棟看護師による手術室研修、手術室看護師による術後ケア研修など行っています。



3F 急性期病棟

手術後、安全に過ごせ、早期リハビリテーションが充実し、短時間で退院、転棟できる機能的な整形外科専門病棟を目指しています。そのためにも、病棟を北側と南側に分けるユニットケアで、入退院や手術の出入りが複雑にならないようにしました。また、患者さまが手術後に自分の時間が持てるよう、個室を多く設定しています。4床室の特殊な形状は、1つのベッドに窓のある空間を提供しつつ、ベッドサイドでリハビリテーションが行いやすいように考えました。手術された部位によってベッド配置が変



えられるよう、コンソールの位置などに配慮しています。また、この病棟では、手術後の感染のリスクを避ける面から、面会者の病棟への立ち入りに制限がありますので、ご相談ください。

■3階病棟 看護主任 村口さん

新しい環境で、設備面にも恵まれ、とても働きやすくなりました。今まで1病棟だったのが2病棟になり、スタッフが一気に増えたことで、育成面では行き届いていないところもあったと思います。でもそれぞれが、それぞれの看護観を持って働いています。意見もいっぱい出しています。私自身、みんなの意見を尊重したいと思っています。新人スタッフも意見を言える環境を作るよう努めました。意見を言い合える仲間と働く中で、良い風が吹きこんできたと感じています。

急性期病棟と手術室との連携をより密に取ることによって業務がスムーズになり、多職種集まっただけのカンファレンスの時間が持てるようになりました。共有できる情報が増え、良い関係性が築け、患者さまに対する、より良いケアにつながっていると考えています。

今後の課題としては、患者さまと療法士の間で、リハビリ目標を決めているのですが、これまで、急性期での看護としては、なかなかその目標にまで関わることができていなかったため、カンファレンスの場などで共有し、関わっていけるよう計画しています。



4・5F

地域包括ケア病棟 病棟リハビリテーションルーム

4Fはリハビリテーション機能の充実した急性期後ケア病棟です。入院が一定期間継続することを想定し、開放感のある過ごしやすい環境にしています。面会に来られたご家族等との団らんもできる広い食堂や気分転換に外気にふれることができるテラスなどを配置しています。広い食堂では、療法士が行うリハビリテーションだけでなく、集団リハビリやスタッフが行う勉強会など様々な目的で利用することができます。患者さま、ご家族様にも活用していただけるスペースとなっています。

入院中の患者さまのリハビリテーションは、主に5Fフロアで行い、運動器・神経系疾患等を対象としたリハビリテーションを提供します。実際に調理できるミニキッチンも整備しており、生活に直結した訓練を行うことが可能です。



従来の整形外科疾患だけでなく、対象疾患を幅広く受け入れ、地域包括ケアシステムを担う病棟としての活動を行っています。そのため、入院される患者さまは、島田病院での急性期治療だけでなく、開業医の先生方をはじめとした地域の医療機関や介護保険施設、ケアマネジャーなど幅広く入院相談を受け付けています。



退院されたあとも、手術後のケアをご自分でできるようにするため、写真や絵を用いて説明し、療法士と一緒に運動していきます。話をお伺いし、お身体の状態を確認させていただいて、必要なリハビリを決定していきますので、患者さまお一人おひとりで内容や提供時間が異なります。



飲み込みの検査ができるようになりました。



安全にリハビリを実施するため、状況に応じて複数のスタッフで対応させていただくことがあります。

■4階病棟 課長 石部さん

この病棟には、整形外科疾患だけでなく、さまざまな疾患の患者さまが入院されてきます。リハビリ目的で入院される方が多いので、意欲的にリハビリに取り組めるよう支援し、安心して療養生活を送れるような環境作りを行っています。4階のナースステーションの前には、明るくて広い共有スペースがあります。ここでは、リハビリテーションや食事、家族の面会に活用されていますが、時には、私たちの勉強会にも使うなど、いつも誰かが自然に集う場所になっています。

■リハビリテーション課 リーダー 南出さん

新しい環境で、今までにない関係の難しさを感じつつも、個々の特性・役割を生かし、協力し合い仕事できています。苦戦しながらも、多職種関係を作り上げようとしている姿を、現場で一緒に働きながら実感し、もっと良いケアにつなげよう意識が高まっています。

さまざまな疾患の患者さまが地域包括ケア病棟に入院され、今まで以上に退院支援に向けて多職種と話す機会が増えているのも、素晴らしい環境があるからだと思います。地域包括ケア病棟として、個別療法だけでなく、生活の視点からのアプローチをし、患者さまの目標達成に向けて、多職種と関係を徹底することが今の課題であり、個々の能力を発揮してより良いチームケアができると感じています。



B1

Eudaynamics はびきのヴィゴラス

健康維持・増進と疾病予防の分野については、健康管理の観点から、健康寿命の延伸を目的とした積極的な地域への啓発活動を継続し、地域活性化に貢献しています。また、医療保険の治療終了後の方で、各々の目標に応じたさらなるQOL向上の希望に応じて、継続したサポートをしています。スポーツ分

野については、スポーツ愛好家からトップアスリートまで幅広く、栄養管理、障害予防、スポーツ復帰、パフォーマンス追求を全面的にサポートします。現在10才から93才までの会員さんにスポーツ競技力向上から介護予防まで幅広くご利用いただいています。

※生活の質、人生の質



リオに行ってきました。



島田病院 院長 島田永和

今回は始めて南米大陸での開催となりました。開催国ブラジルはサッカーの世界カップを成功させ、その勢いで、リオデジャネイロでのオリンピックという大きな国際大会の誘致に自信を持っていました。しかし、経済情勢が悪化し、治安の悪さが強調された報道が目立ち、危険だと心配する声もありました。しかし、ラテンの人々が持つお祭り好きな国民性に加えて、世界の人々を迎え一緒に楽しみ参加するボランティアの方々の協力で、訪れた人々に素晴らしい印象を与えたと総括できると思います。

私の参加目的は、選手の身体のケアを受け持つシンクロナイズドスイミングを応援することでした。トレーニングコーチとしてチームに帯同している浅岡トレーナーは理学療法士で、島田病院で勤務していました。井村コーチが2006年から中国チームを指導するようになった時に相談を受けて彼を紹介しました。

今回、2014年に井村コーチの日本代表への復帰が決まってすぐに、彼女からの直接の要請によって、浅岡トレーナーはチームに入り、ロンドン五輪で取れなかったメダル奪還を目標に活動を続けてきました。選手の体力面の強化だけでなく、勝つために体型を変えるための工夫を取り入れ、同時に、ケガの予防や治療に尽力してきました。私自身は、合宿中に訪問したり、大阪では選手が受診したりして、選手の健康管理をお手伝いしてきたわけです。



f 日本代表チーム(全9選手)には、島田病院TASHでサポートしている井村シンクロクラブから6名の選手が選出されました。大阪への帰省時には日本代表の浅岡トレーナーと連携を取りながら、TASHメンバーでトレーニングサポートを行ってきました。現在、井村シンクロクラブへのサポートは、中学生を中心としたユース世代、高校生を中心としたジュニア世代、また、大学生を含めた日本代表を目指す世代と、各年齢層に応じて行っています。4年後の東京オリンピックを見据え、日本代表として世界と戦う選手の育成支援を続けていきます。

*TASH・・・Top Athlete Support team Heartful

競技の結果は皆さんご承知の通りで、日本のシンクロチームは、2大会ぶりに二つの銅メダルを獲得できました。多少なりとも関わってきた人間の一人として、本当に嬉しかったです。4年後に控える東京での次のオリンピックでは、さらに、違った色のメダル獲得を是非かなえていただきたいし、そのために私たちができることは何でもお手伝いしたいという思いでいます。

嬉しかったシンクロとは別に、この大会を通じて、私が感じたことがあります。それは負けた選手の態度やインタビューでの発言についてです。大会の前半、柔道の試合が続き、金メダルを期待されていた選手が銅メダルだったということがありました。マイクを向けられた選手たちが一様に「申し訳ありません。」と謝罪の言葉を口にしていました。スポーツに限らず、勝負の世界では必ず「勝者」と「敗者」が生まれます。勝者が栄光に包まれ華やかに賞賛されるのは当然です。でも、敗者が背を丸め、下を向き、謝罪の言葉が出るのは、日本人以外では、あまり目にすることはありません。

シンクロ競技の合間に観戦した女子レスリング吉田選手の姿は、とても痛々しく、正視できないものでした。会場の日本人からは、勝つのが当たり前といった雰囲気を感じました。試合はやや強引な攻めを返され、相手に得点が入ります。場内には奇妙な静寂が訪れていました。そして、終了。表彰式でも、晴れ舞台を想定して指名されたであろうプレゼンターのJOC竹田会長から銀メダルをかけられる吉田選手は泣き顔で、私の位置からでも「ごめんなさい」と繰り返しているのが分かりました。



f 9月6日、日本代表の井村雅代コーチ、乾、吉田、中村、丸茂、中牧、林選手(井村シンクロクラブ所属)が銅メダル獲得の挨拶に島田病院を訪問してくれました。私たちが喜びひとしおです。大勢の患者さんも周りを取り囲み、「おめでとう」「メダルとって来て、ありがとう」と、大阪のおばちゃんノリで撮影会が始まりました。

選手団のキャプテンとして臨んだリオ五輪。勝って当たり前
の重圧がどれほど彼女にのしかかっていたのか、その現実を
知らされる光景でした。「私たちは彼女に甘えている」それが、
私の脳裏に浮かんだ感想です。

私は、練習を積み上げ、さまざまな課題に挑戦して舞台上に臨
んでいるスポーツ選手へ、そして、その過程に対してもっと「基
本的な敬意」を払うべきだと思うのです。

敗北したとすれば、一番悔しい思いをしているのは選手本
人であり、指導にあったコーチや関係者にとっても、残念な結
果に違いありません。しかし、必ずそこで得たものがあるはず
です。期待されながら敗北という結果に終わった選手には、そ
の立場からしか見えない事柄や、初めて気付いたこともあると
思います。それらについて、語るができる範囲で伝えていた
だければ、私たちにとって、この上ない情報になるような気が
します。



f 銅メダルを島田理事長に掛けてくれました。全部で7個あり
ましたが、五輪にちなんで5個にしました。シンクロニッポ
ン”復活の使命を受けて戻ってきた井村雅代ヘッドコーチ。メダルを
取るために、刀のような足、肩甲骨や腕など見違えるような身体作
り。ジャンパーはひねりを加えたジャンプへの挑戦。マーメイドたち
の練習の過酷さを知る理事長は、そのメダルの重さを静かに感じて
いました。

以前から、日本にはスポーツ文化が根付いていないという意
見があります。音楽と比較したとき、優れた音楽が持つ芸術性
は誰もが認めるけれども、スポーツとなると勝敗に関心や興味
が集中し、鍛え上げられた選手の素晴らしい身体活動につい
ては、同等の評価が与えられていないことがその証拠としてあ
げられるでしょう。

4年後の2020年「東京オリンピック」が開催されます。メダル
の数が話題になるのですが、それだけが関心事となつてはつま
らないと思います。良い成績を取ることと同時に、その場に出るた
めに大きな努力を費やし、そして、一生懸命戦って、そして勝敗
の決着が付いた後で、謝罪ではなく心に染みる話ができる選
手たちを待ちたいと思っています。そのためには、私たちには
それが可能となるスポーツ文化を醸成させる責任があるように
感じました。スポーツを通して、社会や人間、また自分自身の人
生を考える機会になるような大会になればと願っています。



f サイン入り記念プレートとマグカップをいただきました。そし
て、その場で色紙に寄せ書きをしてくれました。そのあと、選
手達は休む間もなく、なみはやドームでの練習に出発しました。
2020年東京オリンピックに向け、私たちはこれからも全力で、彼
女たちマーメイドジャパンを応援します。

島田病院スケート部 村竹崇行選手が優勝しました!!

平成28年11月5日、6日、京都アクアリーナ
で開催された「第62回西日本ショートトラ
ックススピードスケート選手権」で、島田病院ス
ケート部の村竹崇行選手が、男子1000m
で優勝を果たしました。これまで優勝経験
がなかった村竹選手でしたが、たいへん
意味のある大会になりました。次は第40回
全日本選抜ショートトラックススピードスケ
ート選手権大会に出場しますので、応援よろ
しくお願いします。



はあとふるグループ 使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

はあとふるグループ 理念

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識
Cool Head 心 Warm Heart
Beautiful Hands 技術
で支援します

はあとふるグループの基本方針

1. 「確かな知識と技術」を追求します
2. 「心に届く」を追求します
3. 「安全」を追求します
4. 「信頼でつながるチーム」を追求します

Heartful Group Topics 2016

はあとふるグループ公開講座を開催しました

平成28年9月25日(日)島田病院公開講座をリハビリテーションルームで開催しました。第一部は整形外科副部長佐竹医師による「変形膝関節症の治療」、第二部は村上理学療法士による「日常生活で取り組むヒザ痛対策“基礎編”～やりたいことをあきらめない!～」をテーマにお話しさせていただきました。当日は171名と大勢の方に参加していただき、個別相談にも行列ができるほどでした。



週刊朝日MOOK「首腰ひざのいい病院 2017」(朝日新聞出版平成28年10月20日発行)で、島田病院が「ひざ(人工関節)の手術」、「股関節(人工関節)の手術」でいい病院リストに掲載されました。外来ロビーに10冊ほど配置しています。ぜひご覧ください。

10月2日(日)、前週に引き続き「日常生活で取り組むヒザ痛対策～やりたいことをあきらめない!～“実践編”」を開催しました。当日は124名の方に参加していただき、ストレッチやひざ痛予防体操などを実際におこなっていただきました。今回の講座は運動をメインに打ち出した初めての試みで、少し不安でしたが、参加者の方が周りの方と楽しく運動されているのを見て安心しました。これからも様々なテーマで公開講座を盛り上げていきたいと思っておりますので、多くのご参加をお待ちしています。



はあとふるグループでは、地域の方々に参加していただける公開講座を企画していきます。次回は、12月4日(日)・12月11日(日)の両日14:00～16:30島田病院1Fリハビリテーションルームにて開催いたします。(詳細は、島田病院ホームページやチラシ等にてご確認ください)事前予約、参加費無料ですので、お問い合わせの上、お気軽にご参加ください。



はあとふる グループ

●医療法人(財団)永広会

島田病院 ☎072-953-1001
Eudynamics はびきのヴィゴラス ☎072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 ☎072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 ☎072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 ☎072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

ヘルパーステーション 悠々亭 ☎072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの ☎072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 ☎072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる ☎072-999-8126
〒581-0815 大阪府八尾市宮町5-6-22

●社会福祉法人 はあとふる

ゆうゆうハウス 通所介護 サービス付き高齢者向け住宅 ☎072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10